

ネット利用に関するアンケート調査・結果



- 1 実施主体 富士河口湖町立教育センター・南都留郡学校運営研究会
- 2 実施対象 富士河口湖町・西桂町・鳴沢村・山中湖村・忍野村・道志村の小中学生

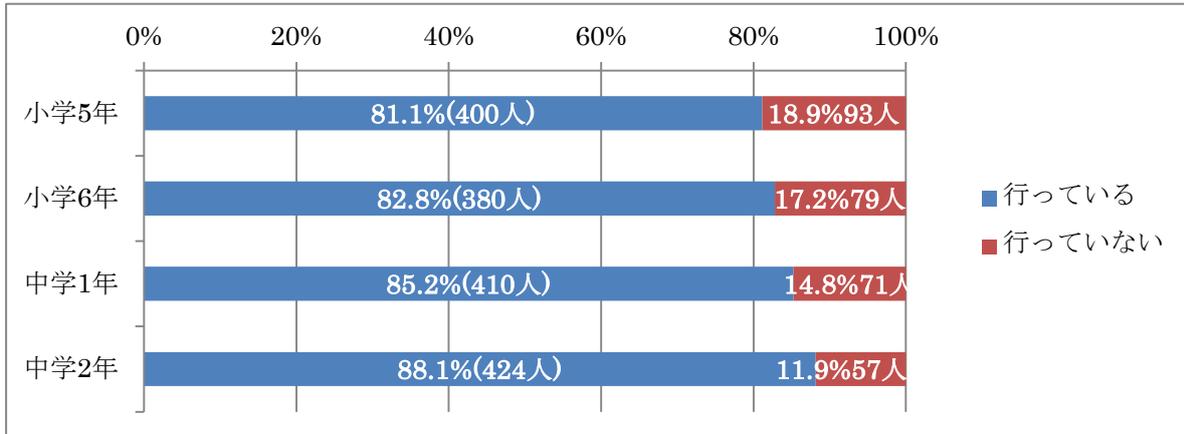
回答数（在籍数）

小学校5年生	493名（502名）	小学校6年生	459名（463名）
中学校1年生	481名（498名）	中学校2年生	481名（492名）

計1914名（1955名）回答率97.9%

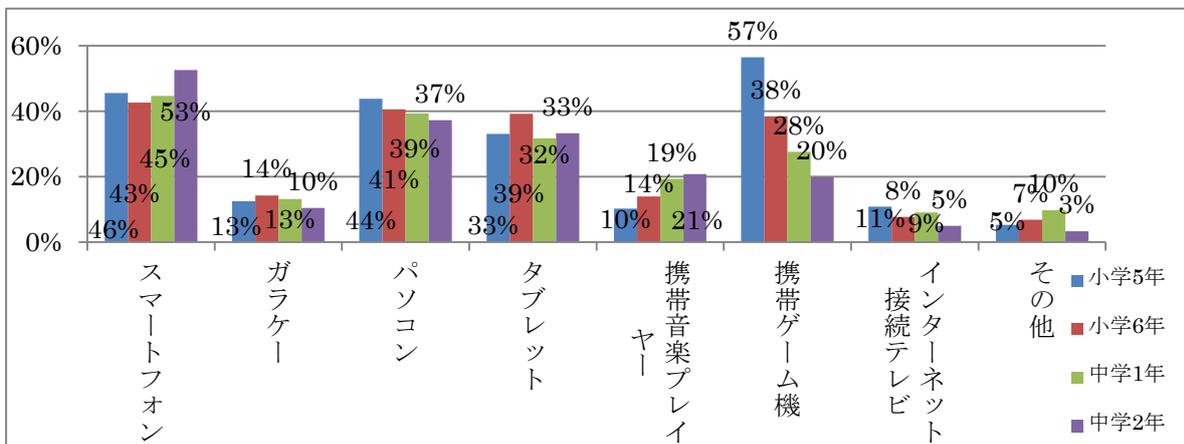
- 3 実施時期 平成26年7月中旬

問1 あなたは携帯電話やその他の機器を使ってインターネット通信を行っていますか。



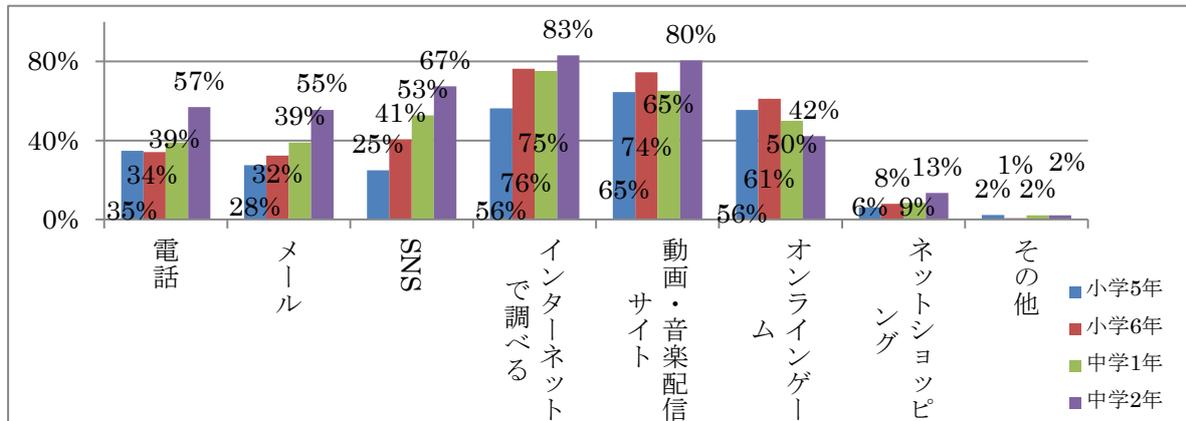
- インターネットの利用率は小5・81.1%、小6・82.8%、中1・85.2%、中2・88.1%と学年が上がるにつれ、高い割合で上昇している。
- 小学5年で約8割、中学2年で約9割（全体平均84.3%・回答1914人中1614人）と、いかにインターネットが多くの子童生徒によって使われているかがわかる。
- 上記の実態から、この時期においてネット利用に関する様々な知識やルールを児童生徒に教え考えさせることは極めて重要なことであり、そのために、学校・家庭・地域・関係諸機関が連携して取り組むことが求められる。

問2 あなたはどのような機器を利用してインターネット通信を行っていますか。



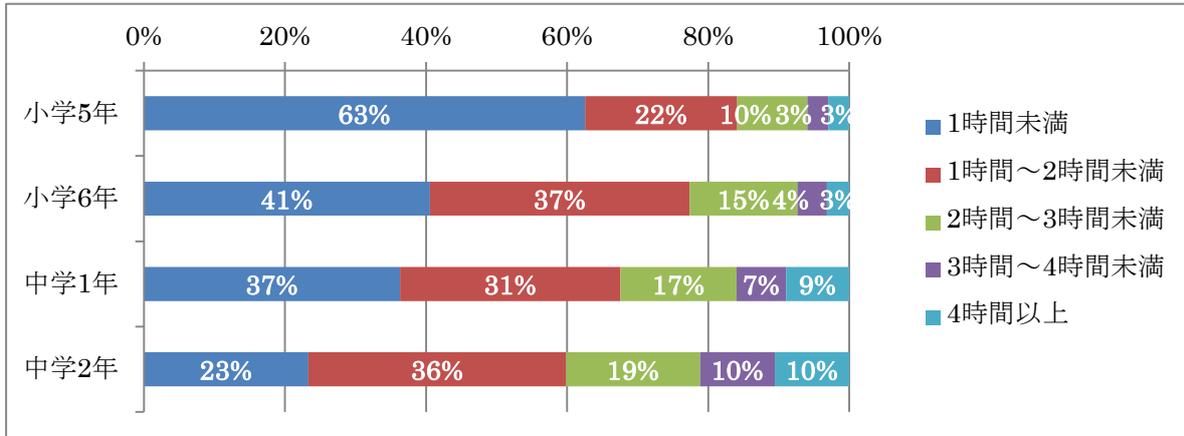
- 児童生徒がインターネット通信の主な手段として利用しているのはスマートフォンを中心とした携帯電話が一番多い。
- スマートフォンとガラケー、いわゆる携帯電話の割合は、小5・58%、小6・56.8%、中1・57.8%、中2・63%になっている。
- 全学年を通して、パソコン（平均40.1%）と、タブレット（平均34.2%）は平均的に利用されている。
- 携帯ゲーム機の使用は学年が上がるにつれ減少している。（小5・56.5%、→中2・19.8%）

問3 あなたは機器を主に何に利用していますか。



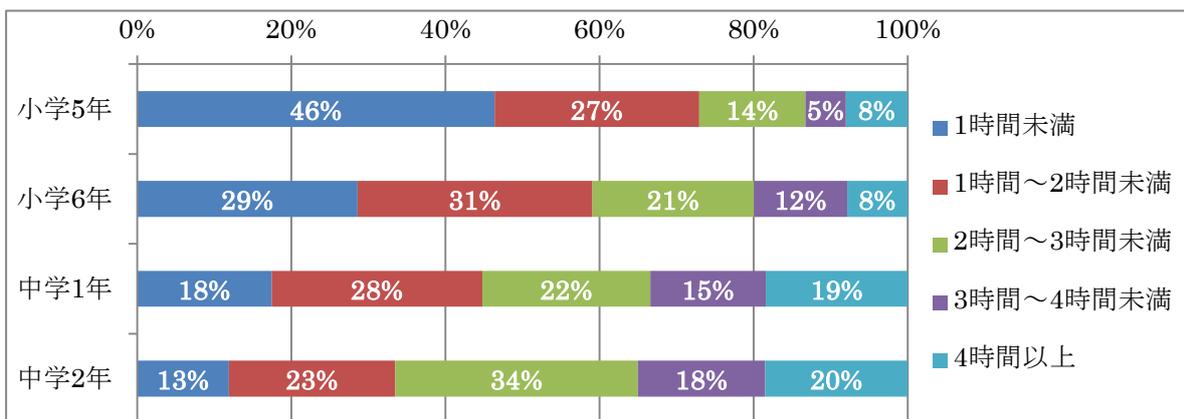
- ○小中学生が機器を使う目的は、①インターネットで調べる（平均 72.8%）②動画音楽配信サイト（平均 71.2%）③オンラインゲーム（平均 51.9%）④電話メールSNSなどさまざまである。つまり、通信手段である電話やメール以外の使用が全学年で多くなっていることがわかる。
- 電話・メール・SNSの利用率は学年が上がるにつれ大幅に増加している。小5と中2を比べると、メールの利用率は約2倍に、SNSの利用率は約3倍になっている。これは、学年が上がるにつれ、人間関係が広がっていくことを示していると考えられる。
- ネットショッピングを利用したことがある小中学生が9.1%（147名）。小5でも6.3%（25名）いることがわかる。具体的な利用状況は調査していないのでわからない。保護者の同意の上に行っているものと思うが、クレジットカードと同じで、現金を介さない簡単な手続きの買い物により、正しい金銭感覚の育成が妨げられることが心配される。また、ゲーム機でプリペイドカードを利用してのネットショッピングも簡単にできる状況があり、プリペイドカードの小額の残高を使いきるために新たにカードを購入し続けるといった依存症的な現象も見られるようだ。

問4 あなたは平日にどれくらい機器を利用しますか。



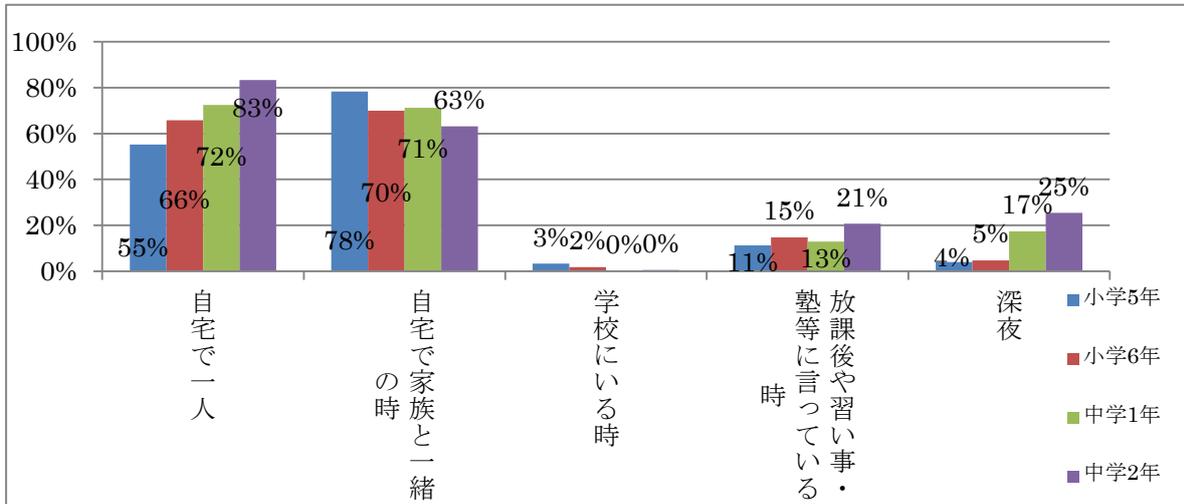
- ○利用時間1時間未満の割合は、小5で63%、小6で40.5%、中1で36.6%、中2で22.9%となっている。
- 1時間以上利用しているのは、小5・37%、小6・59.5%、中1・63.4%、中2・77.1%である。
- 3時間以上利用している割合は、小5で6%、小6が7.4%、中1で16%、中2が21%と、学年が上がるごとに人数が増えている。
- 中学生においては、平日4時間以上インターネットを利用している生徒が全体の約1割いるということがわかる。
- 平日において中学生が4時間以上インターネットを利用しているということは、帰宅してからのほとんどの時間をインターネットに使っていると考えられる。当然家庭学習もおろそかになっているであろう。今年度の学力学習状況調査の結果で、スマホの使用時間の長い児童生徒の点数がそうでない児童生徒と比べ、低い傾向にあることが報告されている。

問5 あなたは休日にどれくらい機器を利用しますか。



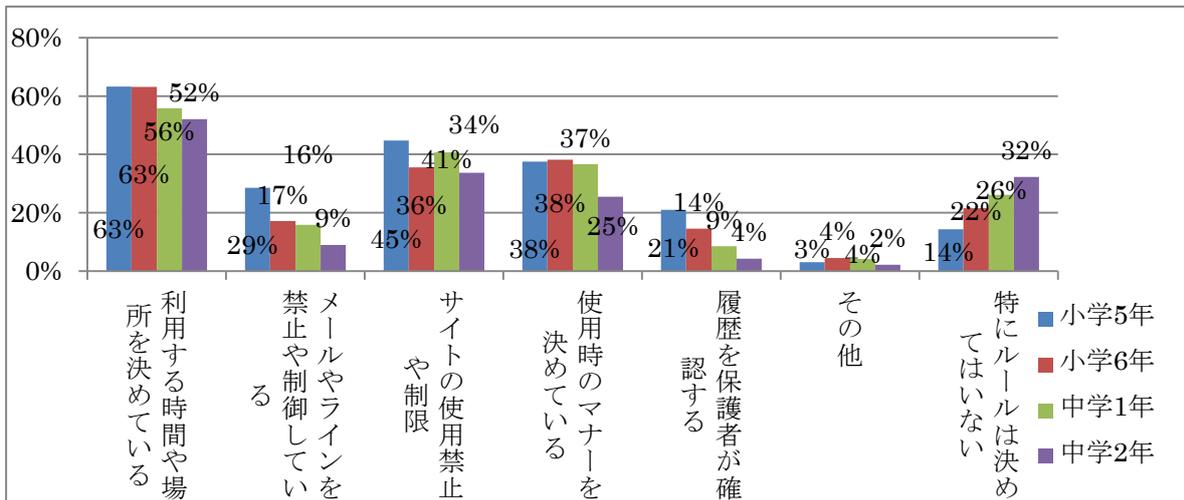
- ○平日に比べ利用時間は大幅に増加している。
- 1時間未満の割合は大幅に減少し、3時間以上利用している割合が、小5で13.3% (+7.3%)、小6で20% (+12.4%)、中1で33.6% (+17.6%)、中2で37.5% (+16.5%)というように、平日のおおよそ倍になっている。

問6 あなたは、いつどんな場面で機器を使うことが多いですか。



- ○全学年で、自宅での使用が圧倒的に多い。
- 小学生の「自宅で家族と一緒にの時」が多いのに対し、中学生は「自宅で一人」が多い。
- 深夜の使用率は、中学生が小学生の4～6倍になっている。
- ※中学2年生を見ると、「自宅で一人」の割合が83.3%、さらに、深夜が25.5%と、使用している生徒の4分の1（108名）が深夜一人でネットと向き合っている状況がある。

問7 あなたの家では機器の使用についてのルールはありますか。



- ○ルールを決めている割合は、小5で85.7%、小6で78.4%、中1で73.9%、中2で67.7%となっている。子どもに初めて機器を持たせるとき何かしらルールを決めている家庭が多いことがわかる。
- ルールで多いのは「利用する時間や場所」「サイトの使用制限」「使用時のマナー」の順。
- 「メールやラインを禁止」したり「保護者が履歴を確認」したりする家庭もあるが、学年が進むにつれ、割合は減少している。

問8 あなたの機器はフィルタリングを設定してありますか。



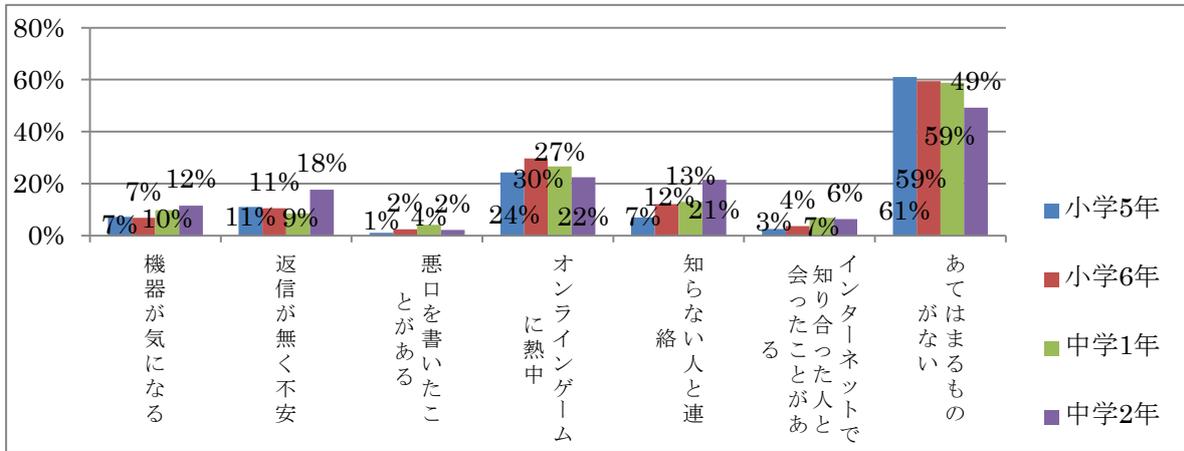
- ○学年が上がるにつれ、設定割合は高くなっている。しかし、それ以上か同等の割合がわからないと回答している。

問9 機器を使うようになってから家族との会話に変化はありますか。



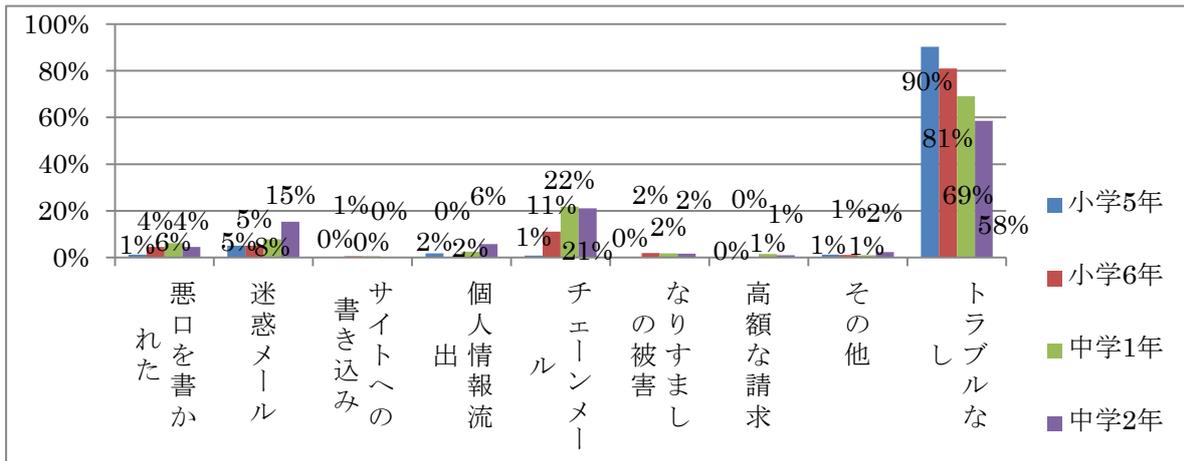
- ○あまり変わらない割合が75~85%。
- 会話が減ったと答えた割合が1.8%~4.9%（平均3.5%）に対し、会話が增えたと答えた割合は9%から22.4%（平均17.4%）になっている。
- 機器の使用に熱中するなど、家族との会話が増えるのではないかと予想したが、逆に会話が增えたという割合が増えている。機器の使い方や、発信される情報等について家族共通の話題として会話が行われているのではないかと考えられる。

問 10 次の中であなたにあてはまるものがありますか。



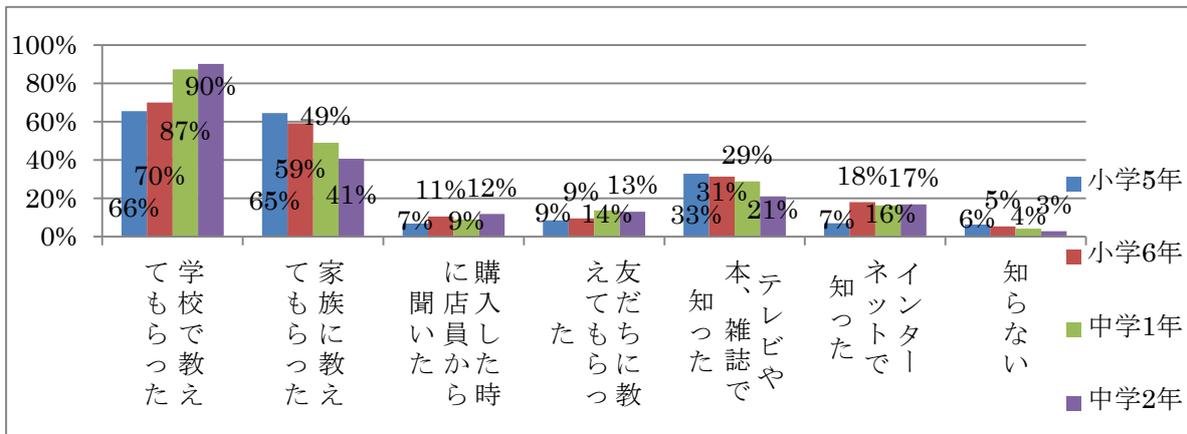
- ○授業中や勉強中でも気になったり、返信の有無で不安になったりと、常に身近に機器がないとられないような児童生徒の割合が、小学生と中1で約18%、中2では約30パーセントにもなっている。
- 一番割合の大きいものは「長時間熱中」で全学年を通じ20%から30%に上る。
- 気になる点としては、「インターネットで知らない人と連絡をとりあったことがある」割合が、小6から10パーセントを超え、中2では21.5% (91人) になっていること。さらに、「ネットで知り合った人と会ったことがある」割合が小5で2.5% (10人)、小6で3.7% (14人)、中1で6.8% (28人)、中2で6.4% (27人) いることである。ネットで知り合ったことをきっかけに犯罪に巻き込まれたという事件が何件も報道される中、安易に知らない人と会う行為の危険さを教える必要がある。

問 11 あなたは次のトラブルに巻き込まれたことがありますか。



- ○巻き込まれたトラブルとして多い方から、①チェーンメール②迷惑メール③悪口を書かれた④個人情報流出、の順になっている。
- 上の①②④は中学生になると割合が増加する。それに対し、③の「悪口」は小5を除いて、同じくらいの割合になっている。
- 少数ではあるが、高額な請求を受けている例もある。

問 12 あなたは携帯電話やインターネットの危険性について知っていますか。



- 全学年で、「学校で教わった」割合が高い。特に中学生は約 90%になっている。それに対し小学生は 5 年 65.5%、6 年 70%と中学生に比べ低いが、逆に、家族から教わった割合が中学生に比べ高い。

○学校や家族の努力にもかかわらず、「知らない」と答えたのが全体で 4.6% (74 人) になっている。

まとめとして

携帯電話やスマートフォン、パソコンなどからいつでもどこでも簡単にインターネットに接続できる便利な世の中になっている今、ネットを介して生じるさまざまな問題が社会で大きく取り上げられています。その中でも小中高生の間で起こる「ネットいじめ」はますます深刻化していて、「ネットいじめ」を苦に、自ら命を絶つ生徒が後を絶たないという現実もあります。現在、SNSの利用者は世界で4億人を超え、日本国内でも5000万人が利用しているといわれています。スマートフォンの普及によりその人数はますます増加し、それに伴いトラブルも増えることが予想されます。

今回の調査は、ネット利用に関する小中学生の実態を把握し、今後の対策や指導方法を考えることを目的に実施しました。南都留郡（富士河口湖町・西桂町・鳴沢村・忍野村・山中湖村・道志村）の小中学校 22 校の小学 5 年から中学 2 年までの約 2000 名を対象にしています。なお、南都留郡全体の傾向と富士河口湖町の傾向がほぼ同じであるため、結果は南都留郡全体のものを表示しています。

アンケート結果から見られる、インターネット通信利用率の高さや利用時間の長さ、約半数が利用していて、今後ますます普及していくであろうスマートフォン。また、身近に機器がないと安心できない、いわゆる「依存症」的な児童生徒の存在、ネットで知り合った人と実際に会ったことのある児童生徒もいます。世の中で報道されているネットに関わる状況は決して他人事ではなく、この地域でも起こりうる可能性を持っていると考えられます。

よって、機器を買い与える保護者、児童生徒が毎日集団生活を行う学校、それを取り巻く地域社会、また、より専門的な知識や技術を持つ多くの専門機関が互いに連携しながら、児童生徒を見守っていくことが重要です。「ルールやマナーを守る」「危険に近づかない」「危険を察したらすぐに大人に相談する」、そんな児童生徒であるよう教え見守っていくことが大切です。

最後に、アンケート実施に協力いただいた小中学校、集計していただいた先生方、取りまとめをしていただいた南都留郡学校運営研究会の教頭先生方に感謝いたします。